

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
東京YMCA 医療福祉専門学校	平成8年2月23日	八尾 勝	〒186-0003 東京都国立市富士見台2-35-11 (電話) 042-577-5521		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 東京YMCA学院	昭和56年5月8日	理事長 徳久俊彦	〒135-0014 東京都江東区石島3番15号 (電話) 03-3645-7171		
目 的	生きるために他人の手を必要とする人々を直接支える介護福祉士、作業療法士には、専門知識や技術だけでなく、常に笑顔と優しさをもって人に接することのできる豊かな人間性が求められます。カレッジスピリットの「互いに愛し合いなさい」に基づき、私たちが忘れてはならない優しさや思いやりをもった介護福祉士と作業療法士を養成します。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
社会福祉専門課程	介護福祉科	昼2年制	2,106 単位時間 (又は単位)	有	無
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	900 単位時間 (又は単位)	450 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	456 単位時間 (又は単位)	300 単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	149人	6人	11人	17人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 学期： 4月1日～9月30日 ■ 2 学期： 10月1日～3月31日 ■ 3 学期： 	成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成績表 (有) 無 ■ 成績評価の基準・方法について 科目の認定基準は、 3分の2以上の出席と科目認定 試験で6割以上の点数をとること。 評価はA～D。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年始め：4月1日 ■ 夏 季：7月20日～8月31日 ■ 冬 季：12月21日～1月5日 ■ 学 年 末：3月22日～4月9日 	卒業・進級条件	該当学年の必修科目および実習が修了認定されていること。		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■ クラス担任制 (有) 無 ■ 長期欠席者への指導等の対応 担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、適切な指導を行う。定期的な連絡も欠かさない。 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動の種類 石巻ボランティア 国際協力街頭募金 ■ サークル活動 (有・無) 		
主な就職先	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主な就職先、業界 特別養護老人ホーム、老人保健施設 ■ 就職率 100 % 	主な資格・検定	介護福祉士		

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 15名 ■中退率 10.3%</p> <p>平成 24年 4月 1日在学者 145名 (平成 24年 4月入学者を含む)</p> <p>平成 25年 3月 31日在学者 130名 (平成 25年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>学業不振、体長不良</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>教員によるチューター制度、カウンセリング、グループ活動による支え合い</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://tokyo.ymca.or.jp/iryofukushi/</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

授業でカバーすべき範囲を定めるのはある程度指定科目の条件の中にあるものの、業界の求める最新の知識技術やこれから必要となってくるトピックの採用には、最先端の現場で活躍している者の意見に耳を傾け、実際の授業やカリキュラムに反映していくことが必要と考える。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 25 年 12 月 10 日現在

名 前	所 属
八尾 勝	校長
倉持有希子	介護福祉科学科長
上松 剛	作業療法学科学科長
望月太敦	卒業生 (介護福祉科)、シャローム天沼施設長
小檜山修平	卒業生 (作業療法学科)、昭島病院職員、吉備国際大学院研究生
白井幸久	東京都介護福祉士会会長、群馬医療福祉大学教授
三沢幸史	東京都作業療法士会理事、多摩丘陵病院リハ科科長

(開催日時)

第1回 平成 25 年 11 月 26 日 19:00~20:30

第2回 平成 25 年 12 月 26 日 19:00~20:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学校で学んだ知識と技術を実習先で実践することにより、現場での即戦力となれるプロの介護福祉士を目指す。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
実習Ⅰ	利用者、家族について知る。またいろいろな種別の施設があることを知る。多職種協働や関係機関との連携について理解する。	デイケア、グループホーム、障害児・者施設、小規模多機能
実習Ⅱ	利用者の生活における必要な情報収集を行い、自立支援の視点から、介護計画を立て、適切な介護が実践できる。	特別養護老人ホーム、老人保健施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な能力、資質等を向上させるために実施することを基本とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 25 年 12 月 10 日現在

名 前	所 属
小泉 昌広	医療法人社団陽和会コートローレル介護長、卒業生 (介護福祉科)
永井 純	北原国際病院病院事務長、卒業生 (作業療法学科)
山野 晴雄	高等学校関係者 (多摩高進顧問)
吉野 たけし	学識経験者 (二葉ファッションアカデミー校長)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://tokyo.ymca.or.jp/iryofukushi/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://tokyo.ymca.or.jp/iryofukushi/>

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援全体像を理解する。	1通	30		○		
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要なコミュニケーション能力を養う。	1前	30		○		
○			社会の理解 I	介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。	1前	30		○		
○			社会の理解 II	介護保険や障害者自立支援法を中心に、基礎的な知識を養う。	1後	30		○		
○			手話 I	聴覚障害者の理解を深め、手話の基本を身につける。	1通	30		○		
○			手話 II	昇格障害者の体験談を聞き、手話で簡単な福祉に関する会話ができるようにする。	2前	30		○		
○			家政学実習 (栄養・調理)	バランスの良い食事とは何か。食べる人の状況を考え、献立を作り、調理ができるようにする。	2通	60			○	
○			生活法学	法体系、相談窓口などの基礎的理解を深め、生活者の視点からの法体系のあり方について学ぶ。	2後	30		○		
○			特別教育演習 I	介護福祉士教育だけではカバーできない周辺分野の講師を招き、幅広い知識を身につける。	1後	30			○	

○			特別教育演習Ⅱ	幅広い分野の専門家を招き、それぞれの専門に応じた内容を学ぶ。	2通	30			○	
○			就職実践演習Ⅰ	福祉専門職として必要な職業観、就労観、社会人としての基盤となる教養を身につける。	1後	30			○	
○			就職実践演習Ⅱ	一人一人の学生が自分の将来を見据えて就職活動ができるようになる。	2前	30			○	
○			学習支援演習Ⅰ	学習情報の提供、学習方法の提示、学校からの情報提供など総合的に学生を支援する。	1通	60			○	
○			学習支援演習Ⅱ	学生の学びへの意識を維持向上するための学習支援を行う。	2通	60			○	
○			いのち演習Ⅰ	死をめぐっての「生」「いのち」について考え、死生観を深める機会とする。	1前	20			○	
○			いのち演習Ⅱ	介護福祉士の立場を軸とし、さまざまな視点から「いのち」をめぐる問題について考える。	2後	10			○	
○			介護の基本Ⅰ	尊厳を支える介護、自立に向けた介護について理解する。	1前	30			○	
○			介護の基本Ⅱ	社会における介護問題を基に介護福祉士としての職業倫理について考える。	1前	30			○	
○			介護の基本Ⅲ	介護を必要とする人を、生活の観点から捉えるための学習。	1後	30			○	
○			介護の基本Ⅳ	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	1後	30			○	
○			介護の基本Ⅴ	リハビリテーションの考え方、実際を理解し、他職種協働やケアマネジメントの仕組みを理解する。	2前	15			○	
○			介護の基本Ⅵ	グループワークを行いながら、他職種連携及び、地域との連携を理解する。	2後	45			○	

○			コミュニケーション 技術Ⅰ	介護におけるコミュニケーションの基本を学ぶ。	1 前	30		○		
○			コミュニケーション 技術Ⅱ	利用者のみならず、家族に対する実践的なコミュニケーション能力を養う。	2 前	30		○		
○			生活支援技 術1 (生活支 援)	適切な介護技術を用い援助できる知識を修得する。	1 前	30				○
○			生活支援技 術2 (居住環 境)	安全で自立した快適な生活環境の諸条件とその整備について学習する。	1 前	30				○
○			生活支援技 術3 (移動)	演習を中心に、体位変換、車いすへの移乗等の技術と知識を学習する。	1 前	30				○
○			生活支援技 術4 (食事)	障害と生活文化を踏まえた食事介助ができるようにする。	1 後	30				○
○			生活支援技 術5 (身じたく)	足浴、洗髪、衣服の着脱等を自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。	1 後	30				○
○			生活支援技 術6 (排泄)	排泄に関する基本技術を学習した上で、障害や生活の状況に合った介護を実践していく。	1 後	30				○
○			生活支援技 術7 (入浴・清 潔保持)	自立に向けた清潔保持の方法と根拠を理解し、実践できるようにする。	2 前	30				○
○			生活支援技 術8 (家事)	家事の介助の技法を学び、自立に向けた家事の介助の技法を学ぶ。	2 後	30				○
○			生活支援技 術9 (睡眠)	睡眠障害に関する原因を理解し、アセスメントに関する知識を深める。	2 前	30				○
○			生活支援技 術10 (終末期)	介護福祉士として遭遇するであろう、人生における終末期の理解と看取りについて考える。	2 後	30				○

○			介護過程Ⅰ	情報収集・分析・解釈に基づき介護内容の方法を計画、実施、評価する一連の過程を理解する。	1前	30		○		
○			介護過程Ⅱ	事例を提示して、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際。	1後	30		○		
○			介護過程Ⅲ	事例を提示して、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際。	1後	30		○		
○			介護過程Ⅳ	事例を提示して、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際。	2通	60		○		
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行う。	1通	60			○	
○			介護総合演習Ⅱ	実習Ⅱの意義、介護課程の展開方法を学ぶ。卒業研究作成と発表。	2通	60			○	
○			介護実習Ⅰ	様々な利用者を知り、理解する。チームの一員として介護福祉士の役割について理解する。	1通	208				○
○			介護実習Ⅱ	利用者の生活を理解し、必要な情報を収集し、実際に介護過程を展開する。	2通	248				○
○			発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達、老化に伴うところとからだの変化を理解する。	1前	30		○		
○			発達と老化の理解Ⅱ	高齢者の心理、高齢者に多い症状・病気について理解する。	1後	30		○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得する。	1後	30		○		
○			認知症の理解Ⅱ	認知症の方への適切な関わり方を習得し、また必要とされる生活環境を理解する。	2前	30		○		
○			障害の理解Ⅰ	障害のある人の心や身体機能に関する基礎的知識を習得する。	2前	30		○		

○			障害の理解Ⅱ	障害のある人の心や身体機能に関する基礎的知識を習得する。	2後	30		○		
○			こころとからだのしくみⅠ	人間の基本的なこころのしくみ、からだのしくみを理解する。	1前	30		○		
○			こころとからだのしくみⅡ	身支度における適切な技術と知識を身につける。食べるために必要な身体と機能を学習する。	1前	30		○		
○			こころとからだのしくみⅢ	入浴、清潔保持、排泄に関連する人体の構造と機能を理解する。	1後	30		○		
○			こころとからだのしくみⅣ	睡眠と死にゆく人のこころとからだのしくみを理解する。	2前	30		○		
合計			52 科目			2,106 単位時間 (単位)				

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			教育学	教育社会学理論、教育思想を踏まえて「教育問題」を論じます。	1前	20	1	○		
○			心理学	心理学の様々な分野から、人間の理解に役立つと思われるテーマをとりあげ学ぶ。	1前	30	2	○		

○			社会学	「社会」について、様々な視点から問題意識を持ち、再考する。	1 前	20	1	○		
○			統計学	データを分析し、分析するための基礎的な考え方や方法を身につける。	1 後	30	2	○		
○			情報科学	収集されたデータから、予測する推測統計の考え方や方法を身につける。	2 前	30	2	○		
○			人間関係学	「自己との関係」「他者との関係」を探りながら、自己分析ができ意識化し自覚することができる。	1 前	30	2	○		
○			死生学	自分自身の死生観を問い直し、生きることの意味を改めて考えていく。	1 前	30	2	○		
○			人間工学	人間工学の概要について学び、リハビリテーションの現場を介して工学的な論理展開を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			医学英語	英文の構造を学び、簡単な英文を理解できるようにする。	1 前	30	2	○		
○			解剖学	人体の構造を形態学的観点からとらえ、器官系統別に理解する。	1 通	80	5	○		
○			解剖学実習	人体の形態学的構造を立体的に理解する。	1 通	120	4		○	
○			生理学	医療従事者として必要な生理学の基礎を習得する。	1 通	90	6	○		
○			生理学実習	ヒトを対象とした生理学的・行動学的指標の測定とその評価と実習の成果発表を行う。	1 通	60	2		○	
○			運動学	全身の運動器に関する構造と機能について基本的知識を習得する。	1 後	40	2	○		
○			運動学実習	基本的身体運動分析を体験学習し、結果をまとめて考察する。	2 前	60	2		○	

○			人間発達学	生物的、社会的、心理的存在としての人間を発達という観点から全体として理解する。	1 後	30	2	○		
○			基礎運動学	運動学、運動学実習を学ぶ基礎として、筋一骨格系の基礎知識を獲得する。	1 前	30	2	○		
○			病理学概論	生体に起こる病的状態について、主として形態学的な観点から学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			一般臨床医学	救命救急医療、外科総論、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老人医療を学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			内科学 I	内科総論を臨床各分野の基礎と位置付けて取り上げる。	1 後	30	2	○		
○			内科学 II	臨床医学の基礎として、症状・検査・治療について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			整形外科学 I	作業療法士が必要な整形外科学を理解し習得する。	1 後	30	2	○		
○			整形外科学 II	種々の疾患について、それらの病態、治療法など臨床医学の概略を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			神経内科学 I	神経解剖学・生理学の知識と理解に基づいた神経内科学の学習	1 後	30	2	○		
○			神経内科学 II	神経解剖学・生理学の知識と理解に基づいた神経内科学の学習	2 前	30	2	○		
○			精神医学 I	さまざまな精神障害について、その症状や治療法を理解する。	1 後	30	2	○		
○			精神医学 II	さまざまな精神障害について、その症状や治療法を理解する。	2 前	30	2	○		
○			小児科学	小児の成長・発達とその障害、小児特有の疾患について学ぶ。	2 前	30	2	○		

○		臨床心理学	臨床心理学の基本的考え方を理解した上で、現場における活かし方を考える。	1 前	30	2	○		
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念、歴史を知る。基礎的知識を得る。	1 前	20	1	○		
○		保健医療福祉概論	わが国の保健・医療・福祉の現状を概観し、今後の展望と課題についても理解を深める。	2 前	20	1	○		
○		作業療法概論	作業療法に必要な一般的知識を習得する。	1 前	20	1	○		
○		作業療法管理学	作業療法士として必要な管理・運営に関する知識を習得し行動できる。	3 前	16	1	○		
○		基礎作業学	作業療法において作業活動を治療・援助に活用するための基礎を学び、作業分析を試みる。	1 前	20	1	○		
○		基礎作業学実習Ⅰ	作業療法的手段として用いられる織物、陶芸、木工の手順、工程、技法を学ぶ。	1 通	80	2		○	
○		基礎作業学実習Ⅱ	作業療法的手段として用いられる代表的な種目に対して、グループ担当授業を行う。	1 後	60	2		○	
○		身体障害作業療法評価学	評価の目的、方法と技術、結果の解釈を学び、実際に行うことができるようになる。	2 前	30	2	○		
○		精神障害作業療法評価学	精神障害領域における作業療法評価の基礎を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		発達障害作業療法評価学	対象児・者および家族の支援計画立案のため、情報を収集し、治療仮説を立てることができる。	2 前	20	1	○		
○		身体障害作業療法評価学実習	関節可動域測定、徒手筋力測定をできるようにする。	1 後	60	2		○	
○		身体障害作業治療学Ⅰ	評価結果から利点・問題点の抽出・整理、解釈を行い、治療プログラムを立案することができる。	2 前	16	1	○		

○			身体障害作業治療学Ⅱ	各種疾患に起因する機能障害を理解し、その機能回復や生活機能障害の軽減の為の作業療法の考え方や手段を説明できる。	2通	40	2	○		
○			精神障害作業治療学Ⅰ	精神障害の概念の変遷と作業療法の理念を学び、精神科作業療法の基本的役割を理解する。	2前	16	1	○		
○			高次神経障害作業治療学	高次神経障害の基礎的な知識を身につけ、作業療法士として臨床現場での応用について準備する。	2後	20	1	○		
○			身体障害作業治療学実習	模擬患者により作業療法のプロセスを実施する。	2後	60	2			
○			精神障害作業治療学実習	評価法やプログラム運営を学生が主体的・実際に試み、その中で適切な態度、役割等を学ぶ。	2後	60	2			
○			日常生活活動援助学	作業療法士として日常生活活動に関する評価・介入・指導ができるための知識・技能・態度を身につける。	2前	30	2	○		
○			職業関連活動援助学	障害をもつ人の就労の現状と作業療法の関わりを知り、援助のための知識・技術を学ぶ。	3前	16	1	○		
○			日常生活活動援助学実習	作業療法士として日常生活活動に関する評価・介入・指導ができるための知識と技術を身につける。	2後	40	1			
○			義肢装具学	義足・下肢装具、義手・上肢装具の知識の修得。装着訓練の知識、スプリント作製技術を学ぶ。	2後	30	2	○		
○			作業療法研究法Ⅰ	作業療法の研究の仕方について一連の流れを理解し必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。	2後	16	1	○		
○			作業療法研究法Ⅱ	作業療法関連領域から自分の興味ある課題に取り組み、卒業研究を完成させる。	3前	16	1	○		
○			臨床作業療法演習Ⅰ	作業療法臨床の現状への理解と見聞を深める。	1後	30	1			○
○			臨床作業療法演習Ⅱ	作業療法臨床の現状への理解と見聞を深め、対象者に対する検査・観察・面接の一部を体験する。	2前	40	1			○

○		地域作業療 法学総論	地域作業療法の理念と役割の修得。	3 前	16	1	○		
○		環境整備論	福祉用具と住宅改造についての基本的知識を身につけ、環境整備案の作成を経験させる。	2 後	20	1	○		
○		作業治療学 特論	各分野の基本的知識・技術を再確認し、国家試験模試を行い、結果を分析し弱点を克服する。	3 通	20	1	○		
○		作業療法総 論	作業療法の一連のプロセスを理解し、実際に行うことができるようにする。	3 前	16	1	○		
○		臨床実習 I－1	対象者に対する検査・観察・面接などを体験し、その情報から対象者の状態像を考察する技術を体得する。	2 後	135	3			○
○		臨床実習 I－2	対象者に対する検査・観察・面接などを体験し、その情報から対象者の状態像を考察する技術を体得する。	2 後	135	3			○
○		臨床実習 II－1	対象者の観察、評価を行い、治療計画を作成し、実践する。治療経過をまとめて考察を行う。	3 前	360	8			○
○		臨床実習 II－2	対象者の観察、評価を行い、治療計画を作成し、実践する。治療経過をまとめて考察を行う。	3 後	360	8			○
合計				66 科目	133 単位	(3114 時間)			